



体育祭



十月四日、秋晴れの青空のもと、第七十四回体育祭が行われました。スローガン「新時代」一人一人が輝くために「にあるように、生徒たちは生き生きと輝きながら各種目を楽しんでいました。コロナ禍では出来なかった大声を出しての応援や、人と人との接触も気にすることなく、大いに盛り上がった体育祭となりました。保護者の方々も沢山参観にいらしてました。



原子力災害を想定した防災訓練



「エッ・どこに逃げればいいのか?」もし、東通村にある原子力施設が事故を起こしたら、大湊高校からどのルートで避難すればいい? スクリーンに映った四つのルートを目の前にして考え込む生徒の姿がありました。

今年六月の岩手県宮古市、八月の東京電力福島第一原発研修に参加した生徒が中心となり、生徒主体の防災訓練が行われました。原子力災害を想定した「防災訓練」は今までなかったものです。田名部高校の生徒が考えたプランを大湊高校用にアレンジし、また、むつ工業高校の制作した「原子力発電所について」の映像を利用する。下北の高校が協力して作られた防災訓練です。

訓練後、研修報告会と齋藤幸男氏の「防災講演会」を実施。齋藤氏の避難訓練や防災に「本気で」取り組む姿勢に圧倒されながら、防災を深く学んだ一日になりました。(キャリアデザイン部・南澤)



登校時二声運動・マナーアップ運動

八月二十四日、二十五日の両日、登校時一声運動・マナーアップ運動が行われました。朝から三十℃近い気温の中、保護者の方三名に御参加いただき、風紀委員と共に活動しました。日差しが照りつける中でしたが、生徒からは元気に「おはようございます」の声が聞こえていました。



2年次修学旅行説明会・進路講演会

十月十日に「ブラザホテルむつ」において保護者対象の修学旅行事前説明会及び進路講演会を実施しました。遅い時間の開催にも関わらず、総勢百名を超え保護者の皆様が参加しました。

修学旅行に関する説明会では、中学校では実施できなかった学校もあったことから、保護者からの質問が多数あり、それを参考にしながらその後の準備をスムーズに行うことができ、十二月四日からの修学旅行も無事終えることができました。

進路講演会では進学と就職・公務員の二つのブースを設け、キャリアデザイン部の先生方が、これまでの進学・就職先や次年度に向けた取り組み・準備して

おく必要がある内容を説明し、学校と保護者・生徒が一体となり、それぞれの進路目標達成に向けての心構えを確認することができました。

いよいよ、進路活動が本格的に始まる時期となりました。生徒にとっては、山あり谷ありの一年となるとありますが、保護者の皆様の協力のもと、学校も全力でサポートし一人でも多くの生徒の希望進路を達成できるように努めていきたいと思っています。

(二年次・飛内)



高総文

国際理解部

研究発表部門 優秀賞

もし、大災害が発生した時「大湊高校が避難所になったらどうなるの?」今年度は「どうなる防災?」災害弱者と避難所運営」というテーマで発表を行いました。

グローバル化が進み、在日・訪日外国人が増える中、災害が発生したら、どんな問題や課題があるのかをアンケートを中心に研究しました。また、学校が避難所になった際、簡易トイレ、駐車場、ペット避難者の場所、体育館のレイアウトなどを防災士の方と一緒に考えるなど、今後の避難所運営のひな型となる全体レイアウトを提案しました。

参加生徒の大半が、運動部や生徒会にも所属しており、忙しい中、時間を作って発表に臨みました。

大湊高校は「下北BOUSAIネットワーク」(大湊高校、田名部高校、むつ工業高校、むつ養護学校の四校合同プロジェクト)

【その他の受賞】

演劇部

東青・下北地区大会

創作脚本賞 最優秀賞

演技賞 北上翠葉

飯野つぐみ

優秀賞

高総文



岸本氏の講演

十月二十六日、四百メートルハードルでオリンピック出場を果たした、大湊高校卒業生の岸本鷹幸氏による講演会が行われました。



岸本氏は目標に向かってやるべきことを逆算していくこと、リスク管理の大切さなどについて語ってくださいました。また、来年のパリオリンピックを大きな目標として取り組んでいくと語ってくださいました。生徒たちにとって自分たちの将来へ向けて非常に多くの学びがある講演会となりました。

編集後記

「いぶき」一〇五号を発行することができ、本紙作成に御協力いただいた皆様には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

今回はPTA行事だけでなく生徒の活躍を中心に編集しました。

会員の皆様には、年次PTA集会等に御出席いただき、円滑に実施できた事を感謝致します。

この広報誌を通じて生徒やPTAの活動の様子が会員の皆様へ届くよう、本校教職員一同取り組んでいます。

今後とも、PTA活動に御理解と御協力をお願いするとともに、次号にも御期待していただければと思います。